　　高等学校における「キャリア・パスポート」の指導と活用について

高校は学科も多様であり、設置形態を見ても全日制課程、定時制課程、通信制課程などがあります。また、同一の学科であっても、その実情は学校ごとに違うと言えるでしょう。よって、「キャリア・パスポート」の指導や活用においては、義務教育段階よりもさらに学校ごとの裁量の余地が大きくなるものと考えられます。また、現時点では、高校で作成した「キャリア・パスポート」を大学等の上級学校や就職先等に引き継ぐことは想定されていません。そのため、なぜ高校で「キャリア・パスポート」の指導や活用を継続すべきなのか、疑問に思う先生方もいらっしゃることでしょう。しかし「キャリア・パスポート」の導入の目的を鑑みれば、その重要性と必要性を再確認できるはずです。

「キャリア・パスポート」の目的には、①生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成の過程を見通したり振り返ったりして、自己評価に役立てること、②教師にとっては、生徒と対話的に関わり、一人ひとりの自己有用感の醸成や自己変容の評価を支援する手立てであること、があります。つまり、「キャリア・パスポート」の活用は、生徒が自らのキャリア形成のために必要な様々な汎用的能力を育てていくための効果的な方法であり、将来にわたる本質的な学びを支える柱を育成するものであるとも言えます。各学校において、目の前の生徒にどういう力を身に付けさせたいのかを明確にし、その育成の一助となるような「キャリア・パスポート」の指導と活用が望ましいと考えられます。

「キャリア・パスポート」の活用については、行事や学びの際のシートの記入とその蓄積のみになりがちですが、大切なのは、記入されたシートとシートをつないでいく活動です。ホームルーム活動においてこれらをつなぎあわせることで、学校の教育活動全体がつながり、生徒は点と点がつながった教育活動全体を通して自らの成長(これまで)を客観的に捉え、将来(これから)を見通すことができるでしょう。このような活動をしっかりと行うかどうかが「キャリア・パスポート」の価値に大きな影響を与えることは言うまでもありません。シートの記入に関しては、朝のSHR等の短い時間で行い、点と点をつなぐ活動にぜひ時間を割いていただきたいと思います。

生徒たちが、自分で何ができるようになったかを把握することは、自分という存在を肯定するための大事な要素です。この「キャリア・パスポート」は、生徒一人ひとりが自分自身の成長を記録し認めることで、過去から続く今の自分を、将来の自分へとつなげ、夢や希望をもって生きていくための底力になるものです。この「キャリア・パスポート」の記入に際しては、生徒が自分を大きく見せたり他人の目を気にしたりせず、ありのままの自分を記録できるように支援し、書けない生徒がいたとしても、その現状を受けとめ、振り返って、書けなかった自分がどう変容していくのかを見取らせることが大切です。教師が「必ず書きなさい、○行以上書きなさい」などと指示せず、書けなかった空欄に対しても継続して対話的に接することで、生徒の変化を見取りましょう。

「キャリア・パスポート」の活用を通して、私たち教師も生徒との関わり方を振り返り、生徒の状態を共有し、見通しを持って生徒と接する教師集団となり、よりよい教育活動ができることを願っています。